

「連合2022平和行動in広島」派遣団報告

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で 核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう ～連合平和ヒロシマ集会に、全国から1,035名が結集～



平和集會会場の様子

1945年8月6日午前8時15分、暑い広島の街に凄まじい熱線と爆風、一瞬にして焼け野原となった広島、人類が作りだした恐るべき原子爆弾により何の罪もない14万人余りの尊い命が奪われたあの日から77年目を迎えた。同じ悲劇を二度と繰り返さぬよう、3年振りに核兵器廃絶と恒久平和の実現を求める「連合2022平和ヒロシマ集会」が8月5日（金）県立広島産業会館において、全国から1,035名の仲間が結集して開催された。連合福島からは、福島地区連合の菅井謙一議長を団長に9名が参加した。集会に先立ち、菅井団長が連合福島を代表して平和の折鶴を献納した。

集會では連合芳野友子会長が主催者を代表して挨拶、続いて国際労働組合総連合（ITCU）から、シャラン・バロウ書記長が核兵器廃絶と平和で公正な社会の実現を求めるメッセージを発信した。また中国新聞社編集委員の水川恭輔氏による「核兵器使用の非人道性と核兵器禁止条約」について講演があり、広島県原爆被害者団体協議会・被爆を語り継ぐ会の切明千枝子さんより当時の被爆体験が語られた。全国から選ばれた高校生平和大使「ビリョクだけどもリョクじゃない！」の若者らが核兵器廃絶と世界の恒久平和を願うメッセージを伝え、最後に全員参加で「平和アピール」を採択し「ヒロシマ集會」は閉会となりました。



平和の折鶴を献納する菅井団長



平和集會会場と原爆ドーム前での集會写真

翌8月6日、厳戒な警備態勢の中、会場の外からではあったが広島市主催の原爆死没者慰霊式ならびに平和祈念式典に参加し、午前8時15分、静寂の中、平和の鐘が鳴り響く会場に向け連合福島派遣団9名も黙祷を捧げた。この日は、国連のグテーレス事務総長をはじめ、世界各国から多くの要人が参加されており改めて核兵器の悲惨さを痛感した。世界で唯一の被爆国である日本から核兵器廃絶と世界の恒久平和実現に向けて尽力することを宣言し、平和運動がさらに広がり、戦争のない平和な世界が実現することを広島の空へ改めて願った。

夕暮れの原爆ドーム前の元安川には冥福を祈る灯籠と平和を願う灯籠が手を繋ぐかのように緩やかに流れて行きました。暑い広島でしたが、菅井謙一団長のもと団結して役割を果たす事が出来た。参加者の皆様に改めて感謝申し上げます。（記：副事務局長 半澤善伸）